

# 次代につなぐ持続可能な地域農業

## ～県営松原地区農地整備事業～

ほ場整備は農地の区画整理、農道の整備、農業用排水路等の整備を総合的に行うことです。ほ場（水田、畑）を大きな区画にして、用水をパイプライン化し、広い農道を作ることにより、大型機械の利用と容易な農業用水の管理が可能となり、農業生産性の向上を図ることができます。

今回は、厳しい条件の中でも、地域の結束により地域農業の継続を目指す「松原地区農地整備事業」の取り組みを紹介します。

### 【事業の概要】

受益面積：31.6ha  
事業費：8億4,600万円  
負担区分：国 55%、県 27.5%、  
舟形町10%、地元 7.5%  
予定工期：令和2年～令和11年  
工事内容：区画整理工A=31.6ha、整地工31.6ha、  
道路工5.00km、用水路工4.95km、  
排水路工4.36km、地下かんがい工28.6ha

### 若手後継者育成、 高収益作物にも

松原地区は、昭和39年に団体営開田事業によって開田され、最上川から揚水機で取水しています。農地は10a程度の区画がほとんどであり、農道も狭く用排水路の老朽化も進んでいます。維持管理で多大な労力を費やしているため、効率的な営農が困難であるため、早期の工事着工が望まれています。平成27年度に地元組合からの要望があり、平成28年度より調査計画に着手しました。

また、平成30年度には基盤整備を見据えて、国の補助事業により若手後継者が独自のライスセンターを造成し、経営規模の拡大、生産基盤の整備をしています。事業完了後は、全体面積の9割を5人の担い手へ集積することを目標としています。また、さらに、アスパラガス、タラの芽などの高収益作物による営農経営にも取り組めます。

### 条件不利地でも

今後町では、舟形町農業ビジョン実現にあたり、条件不利地であっても、農業基盤の整備促進するため、地域の特性に応じて、ほ場・農道・用排水路施設などを推進していきます。



舟形町農業ビジョン

### 今後の予定

#### 【三光堰西3期地区】

受益面積：101.1ha  
事業費：22億3,800万円  
予定工期：令和元年～令和12年

#### 【沖の原地区】

受益面積：114.7ha  
事業費：30億9,600万円  
予定工期：令和4年～令和12年

#### 【紫山向山地区】

受益面積：47.8ha  
事業費：13億1,700万円  
予定工期：令和4年～令和11年

### 町の独自支援等

#### 【町の独自支援】

農地整備事業を促進するため、計画設計に係る町負担率を嵩上げし、地元負担率を軽減。

- ・県営土地改良事業計画設計事業  
県40% 町10% 地元50%
- 県40% 町50% 地元10%

#### 【基盤整備メニュー】

「農地中間管理機構関連農地整備事業」を活用すれば対象農地面積10ha（中山間5ha以上）を要件として、大規模農地でもなくても実施可。

### 組合長より 地域の思いが形に

このたび、地域の念願であったほ場整備の面工事が着工することとなりました。思い起こしますと平成28年から調査計画が立ち上がり、関係各所の検討により、およそ31haのほ場整備事業が採択に向けて動き出しました。みなさんの協力を得て、令和2年9月に事業計画が確定し、幾多の課題を乗り越え、今日を迎えることができました。

これもひとえに地域の思いのみならず、山形県、舟形町をはじめ計画に関わっていた皆様、近隣の町内会のみならず、みなさんの多大なるご支援ご協力により実現できたものです。心より感謝申し上げます。



松原地区ほ場整備組合  
組合長 庄司市雄さん  
6月30日、安全祈願祭